

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

己	自	部	外	項目	自己評価	外部評価		
					実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営								
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている			運営理念を確認し合い、迷った時は原点にもどり、振り返るよう努めている。	事業所独自の四項目からなる理念が作成されている。分かり易い内容で玄関と事務所に掲示されており、来訪者にも開示している。常に原点に帰るという意味からも職員会議で確認している。理念にそぐわない言動が見られた時には管理者から職員に直接注意をしたり助言をしている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している			防災訓練、催し物などに参加している。民生委員さんの定期的な訪問もある。	自治会費を納め地区の行事にも可能な限り参加し、地域の草刈りなどにも地元在住の職員が参加している。村の文化祭にも作品を出品したり、地区の花火大会がホームの近くで行なわれるので見に出かけている。村外のNPO法人の依頼でヘルパー2級の実習生も受け入れている。津軽三味線や大正琴、オカリナ、アコーディオンの演奏や落語など多くのボランティアの訪問がある。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている			実習生の受け入れを引き続き行い、自立支援センター及び社協とも協力しながら地域の人々の理解に努めている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている			役場・民生課、自立支援センター、社協、交番、民生委員の方々とメンバーに迎え、意見・要望を取り入れるよう努めている。	概ね3ヶ月から4ヶ月に1回開催している。家族、民生委員、役場職員、自立支援センター職員、社協職員をメンバーにホームの現況報告や研修なども入れ、参加者から要望や意見、助言を頂いている。ホーム通信で全家族に参加を呼びかけている。地域の要職の方々は仕事の関係で参加が難しい状況である。次回の開催予定については会議の中で伝えている。	会議の進め方などは定型化されているので、メンバーが参加しやすい月や週、曜日などを設定して隔月で開催されることを期待します。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる			自立支援センターや社協と情報を交換しながら連携に努めている。	役場担当者や自立支援センター職員とは情報交換をしたり相談を持ちかけている。役場や社協の担当者との円滑な協力関係が築かれている。認定調査については役場から担当者が訪問しているが、家族の同席は少なく、ある意味では家族からの信頼は厚い。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指特定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる			玄関の施錠は夜間のみとし、身体拘束をしないケアについて職員会議で再確認をしている。	玄関は元々来訪者用の押しボタンなどもなく、日中、施錠もしていないので自由に出入りできる。訪問調査時も利用者が自由に外に出ており職員もその利用者の特性を理解しているの見守りと一緒に歩くことで本人が満足出来るように努めている。その他の身体拘束や入居者の行動を制限することは全く行われていない。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている			社内、社外研修にて理解を深め、防止に努めている。			

グループホーム大地

己	部外	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	十分とはいえない。特に成年後見人制度については、研修会参加を増やし、理解していることが第一歩と考えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居に当たっては面談を重ね、要望や不安な点を伺い、十分な説明をし理解して頂けるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置や相談窓口を設け、随時対応できるようにしている。家族は面会の際、直接話をして、個々に対応することが多い。	半数以上の利用者が自分の思いを表すことができる。家族からの意見や要望等は施設長が窓口となり、内容を検討し運営に反映させている。家族から直接頂いた相談や依頼等への対応の仕方を記録に残している。ホーム通信「ありがとう」を毎月発行し、利用者全体の様子を写真で紹介し、個別の暮らしぶりや健康状態などについては同じ紙面の「近況報告コーナー」に記入し、家族に送っている。家族との意思疎通のための有効な手段となっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	法人全体で提案箱を設け、月1回の施設長会議で討論し、反映できるようにしている。	毎月1回、月初に職員会議を行い、運営に関することや利用者の状況について話し合っている。職員は意見や提言を活発にしておき、運営に活かされている。職員の提案箱があり、毎月本部に集められ開封後施設長会議で提案内容を検討している。施設長と職員のコミュニケーションもよくとられており、日常の業務の合間に、意見や要望を聞いている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理マネージャーが各職員と面談し、意見・要望等を聞き職場環境の向上に努めている。又本年度より自己評価制度を導入し、反映できるよう模索中である。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間計画に基き、全員が研修に参加できるようにしている。会社所有のケアスクールにて、介護福祉士の資格取得に向け、勉強会・講習会等行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会の会員として、交流会・研修に参加し交流している。又、近隣のグループホームの集いに参加し、問題点や悩みなどを話し合い、参考にさせてもらっている。		

グループホーム大地

己自部外	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	職員会議で話し合い、十分なアセスメントを行い、利用者さんの生活歴・習慣等を考慮しながら、チームケアに取り組んでいる。		
16	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所に当たっては納得して頂けるまで話し合いを重ね、信頼関係が築けるよう努めている。		
17	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の生活歴・習慣をふまえ、どのように暮らしていきたいか、そのために必要な支援は何か考え、インフォーマルなサービスも含めて対応している。週一回近くの特養に洗濯物たたみのボランティアに参加している利用者もいる。		
18	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ゆっくり・のんびり・一緒にをモットーに利用者さんのペースに合わせて、買い物・食事作りを協力しながら行っている。		
19	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の方には、利用者さんの心理面を支えてもらえるよう、面会や外出などに協力してもらい、職員は日頃の様子を伝え、家族が戸惑わないよう配慮している。		
20	(8) ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近所の方々と接点を持てるよう、外出の機会を増やしたり、地域の行事に積極的に参加できるよう努めている。 ボランティアの方が来設する時は、近隣にも声をかけ、一緒に楽しめるようにしている。	自宅近くの近所の方が数人で電動シニアカーに乗り利用者を訪ねてきたことがありホーム内外ともに賑やかであったという。利用者の様子を気にかけて定期的に来訪する民生委員の方もいる。今年からホームに訪れるようになった演芸のボランティアのうちの一人が利用者の昔の職場仲間であつたという。ホーム利用後も地域に暮らす人々との交流が続くように情報を集めながら取り組んでいる。親戚や知人との手紙、電話などの支援もしている。	
21	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個性を尊重しながら、気の合う仲間作りができるよう、工夫・配慮している。		

グループホーム大地

己	自部外	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された後も面会に行き、様子を伺っている。 又、家族からの相談もあり、退所後もよりよい介護を受けられるよう支援している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の要望・希望を受容し表現が困難な方には多様な声掛けをして、要望を引き出せるよう工夫している。	遠慮がちで自分の思いや希望をなかなか言い出すことがない利用者にも声がけし、天気の良い日には外出などに誘い自己決定の場面を作っている。職員は日々、入居者とかかわりながら一人ひとりの思いや希望の把握に努めており、表出が難しい入居者については表情や仕草などから本人の気持ちを受け止めている。大きな声で分かり易く話したり、耳元で話すなど一人ひとりに合った声がけを工夫し意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人・家族からの情報、前施設からの情報をもとに、その人にあつたケアを見だし、実践できるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の生活リズムをアセスメントを通して把握できるよう努めている。現状に変化があつた時は、サービス担当者会議にて検討し、現状の把握の努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	長期目標6ヶ月、短期目標3ヶ月をめぐり、モニタリング・アセスメントを行い、現状に即した介護計画を作成している。	本人や家族の生活に関する意向を基にホームで本人らしく暮らせるための介護計画を作成し家族の面会の折に確認をいただいている。サービスの担当者会議も毎月の会議の時にしない、定期的に評価見直しを行っている。意向や状態などが変われば直ちに直し、新たな介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	本人の話したこと、行動を記録に残し、職員間で話し合いながらケアの実践、介護計画に結びつくよう努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族・医療・ボランティアの人たちとの協力を得ながらその時のニーズに対応している。		

グループホーム大地

己自部外	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	広報などを利用し、催し物や行事に参加できるように、支援している。近くの施設に職員と一緒にボランティアで出掛けている利用者もいる。		
30	(11) ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	指定協力医院として契約を結び、受信・往診・休日の対応ができるよう支援している。本人・家族の希望により、これ以外の医療機関も受診できるよう対応している。	基本的には利用前のかかりつけ医を継続している。通院や受診は家族にお願いしている。緊急時は職員が代行しており、受診後の状況を電話で報告している。近くに協力医院があり入居者の状況により職員が同行したり、場合によっては往診もしていただける。同じ医院の看護師の月2回の訪問があり、入居者の健康状態確認や職員の相談にのっている。歯科については訪問歯科を利用する方が多くなってきている。	
31	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職はいないが、指定協力医の看護師さんが月2回訪問し、相談・協力してくれている。		
32	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入・退所時には、医師やケースワーカーと連絡を密にし、特に退所後の生活、医療上の留意点など相談できる関係を築いている。		
33	(12) ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現在は終末期ケアの方針について、明文化したものはないが、支援できる方向で検討はしている。法人運営の他のグループホームでは看取り経験もあるので参考にしていきたい。	開所から現在までのところホームでの看取りは全くない。契約時には重度化や終末期についてのホームの現状を本人や家族に説明しており、看取りについても前向きに対応しようと考えている。利用者の入れ替わりにより平均年齢86歳、平均介護度2.8と昨年と較べ若干下がってはいるが共に高い。AEDや心肺蘇生法などが一に備えているが今後に向けて全職員で検討されることを期待したい。	
34	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年1回救命救急講座を受講している。又、避難訓練を日中と夜間帯に分けて、行っている。		
35	(13) ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は日中と夜間と分けて行い、職員は持ち場、役割分担を決めている。	居室入り口には緊急時の利用者の歩行手段や利用者情報が書き込まれ持ち出せるようになっているネームプレートが備え付けられている。消防署員の指導の下、年2回の訓練を実施している。避難訓練、通報訓練、消火器の取り扱いなどの訓練を行っている。入居者も職員の誘導を受けながら避難訓練に参加しており、半数以上が車椅子を必要としている。緊急連絡網を使い、予告なしの夜間訓練を独自に行っており職員の到着時間を測定している。スプリンクラー、自動火災報知機など防災設備も整えられている。介護用品、水、食料品なども備蓄している。	

グループホーム大地

己	部外	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の個性、人格を尊重し接する態度・言葉使いに留意しながら対応できるよう心掛けている。	謙虚な気持ちを持って接することが理念にも上げられており、職員は利用者を人生の大先輩として敬う気持ちを持ち業務に動んでいる。職員は排泄の失敗時にバスタオルなどで包んだりしてさりげない対応をしている。各利用者の居室の入り口に備え付けられた緊急時持ち出し用のネームプレートも折り紙袋に収納されていた。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常に待つ姿勢で接するよう心掛け、職員の思い込みや、せかす言葉使いはしないよう留意し、本人の意思決定を促すよう対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のその日の気分や体調を考慮しつつ、ドライブや買い物など希望に添えるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分で選べる人は好みで選んでいただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の下ごしらえは、声かけて一緒に行っている。食器洗いは進んで行ってくれる利用者さんもいて交代でお願いしている。	一部介助と全介助の方が約三分の一ほどおり、食形態も粗キザミとトロミを必要とする方がいる。そのほかの方は常食である。約半数の方が皮むきやモヤシの芽とり、後片付けなど力量に応じて職員と一緒にいる。夕食のみ食材の配達サービスを利用し、朝食、昼食を入居者と一緒に作っている。そうめん流し、五平餅づくり、焼肉大会なども季節に合わせ全員で楽しんでいる。ホームの畑ではジャガイモやネギなどを収穫しており、軒先には利用者が皮をむき糸にくくりつけた干し柿が吊るされていた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	バランスの取れた食事ができるよう一週間単位で献立を立てている。一日あたりの水分量を記録し、好みの物が摂れるよう工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	全員が毎食後の口腔ケアをしているわけではないが、できるだけ自分で行えるよう支援している。		

グループホーム大地

己自部外	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16) ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中は布パンツ着用を基本とし、本人の排泄感覚が鈍らないよう努めている。 排泄表を使って記録に残し、時間を見計らってトイレ誘導している。	排泄の自立に向けた支援が行なわれており約三分の二の利用者が自立している。日中リハビリパンツを利用されている方が三分の一ほどいるがその他の方は布パンツを使用している。夜間のみポータブルトイレを使用している方が若干名いる。夜間のみ大きめのパットを使用している方には時間で交換し自分で起きてくる方には見守りで対処している。尿意を表せない方には仕草で判断し、さりげなく誘導したり、交換をしている。	
44	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の記録をとり、一人一人のリズムを把握し、飲食物の工夫をしながら薬の服用も併せて行っている。		
45	(17) ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	午前・午後問わず、好きな時入浴できるよう心掛けている。夕食後は、職員の配置の関係で希望に添えていないのが現状です。	お風呂はほぼ毎日準備し、殆どの利用者が一日おきに入浴している。全介助の方が三分の一、見守りと一部洗身が必要な方が約半数ほどいる。拒む入居者には家族の協力をお願いしている。のんびりと気持ちよく入浴していただくために本人のペースを尊重している。入浴剤入りのお風呂にすることもあり、ドライブを兼ね近くの温泉地の足湯に出かけ楽しむこともある。	
46	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人のペースに合わせて、ご自分の居室やソファなど、好きな場所、好きな時間に休んでいただけるよう支援している。		
47	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は処方されている薬について理解しており、症状変化については、速やかに主治医に相談し、その指示を受けている。		
48	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事や縫い物などに参加してもらい、役割を持った生活ができるよう支援している。 歌が好きな人が多く、皆でよく歌っている。		
49	(18) ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節の花を見に行くときは車で出掛けている。 天気の良い日は中庭でお茶や昼食をして外気浴も楽しんでいる。	外出する時に車椅子が必要となる利用者が約半数ほどいるが天気の良い日には家族の協力もいただきホーム周辺を散歩している。ホームの周辺には福寿草、桜、ハナモモ、ツツジなど数多くの名所があり、ドライブがてら毎年出かけている。近くの温泉地や旧街道沿いの民家で一斉に行われるつるし雛や雛人形展示を見学するために少人数のグループに分かれ出かけている。	

グループホーム大地

己	自	部	外	項 目	自己評価	外部評価	
					実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50				○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在お金の管理をしているのは一人のみである。		
51				○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	親戚・知人などから贈り物があった時は、出来る限りご本人が電話などで話ができるよう配慮している。電話の使用は自由にできるよう支援している。		
52	(19)			○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	自然の木材をふんだんに使った心地よい館内には、季節の草花が飾られ、台所からは包丁を使う音が聞かれる雰囲気がある。今年からうさぎも飼い始め、えさをやるのを楽しみにしている利用者さんもいる。	リビング兼食堂、キッチンを囲み各居室が配置されている。床暖房も設置されているので利用者は日中の多くの時間をこの場所でのんびりと過ごしている。トイレも3ヶ所あり、車椅子対応にもなっている。随所に付けられている木製の手すりには壁の木目に同化しないようにと赤や黄色のテープが巻かれ識別しやすいように工夫されている。壁のボードにはスナップ写真や利用者が生きてきた時代の年表が張られ、話題づくりに欠かせないものとなっている。南側にあるウッドデッキは広く気分転換には最適で、利用者お手製の干し柿が立冬の陽差しを受け軒下に揺れている。	
53				○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールの角にはソファや畳ベンチがあり、思い思いの場所で寛げるよう工夫されている。		
54	(20)			○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、使い慣れた馴染みの家具や家族の写真などを飾り、落ち着いた過ごせるようにしている。畳の部屋で休まれている利用者さんもいる。	各居室にはクローゼット、エアコン、清浄換気機器などが備え付けられている。一部畳敷きでコタツやテレビなどを置いている居室もあるが、殆どの居室がフローリングでベッドでの生活をしている利用者が多い。居室の壁のボードには誕生カードや家族とのスナップ写真などが貼られている。滑り止め用のマットが敷かれている居室も多く見られ、利用者の安全面にも配慮がされている。入口には緊急時に使うネームプレートが折り紙袋に収められている。	
55				○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	全館バリアフリーの中、各部屋に目印をつけ、トイレ・風呂場など解り易いように表示している。		